

令和6年度 第2回 清瀬市地域自立支援協議会

議 事 要 旨

件 名 第2回 清瀬市地域自立支援協議会

事 務 局 福祉子ども部 障害福祉課障害福祉係

開催場所 清瀬市役所4階 研修室2・3

日 時 令和7年3月17日(月) 午前10時～12時

出席者 委員12名

浅野 穂高、岩澤 寿美子、菊間 英子、熊谷 大、齋藤 靖之、
鈴木 朋恵、富永 健太郎、長嶋 潤、贄川 信幸、稗田 知子、
森田 憲英、山崎 昭浩

(五十音順、敬称略)

欠席者 宮寺 孝

会議次第

- 1 各専門部会の活動報告及び次年度活動計画の方向性について
- 2 精神保健福祉担当者連絡会(報告)
- 3 令和7年度会議日程について
- 4 日中サービス支援型共同生活援助評価について
- 5 その他
 - ・ 障害者計画調書評価(報告)
 - ・ 共生社会の実現に向けて

審議経過

1 各専門部会の活動報告及び次年度計画について

各部長より資料1-1～1-4に基づき説明

| | |
|-----|---|
| 部会長 | <p>権利擁護・差別解消部会では、障害者理解への啓発と事業所間のネットワークづくりについて取り組んだ。障害者理解への啓発については、自立支援協議会とは別の他団体を設置し社会福祉協議会の補助金を受け、『障害者週間』と記載したのぼり旗(52枚)とポスター(100枚)を作成した。各市内事業所にも配布し、のぼり旗を立ててもらい、ポスターも掲示してもらった。また、地域の市民センターにもポスターを掲載してもらった。のぼり旗についてはまだ残っているため、来年度以降も配布しきれていない事業所に配布し、市内全ての事業所に掲げてもらえるように取り組んでいく。ポスターはひだまりの里の利用者さんに描いてもらった絵を中心に作成した。来年度も当事者本人が作成した絵を活用できればと考えている。</p> <p>事業所間のネットワークづくりについては、3回目となる虐待防止研修会を実施し、様々な事業所にご参加いただいた。今回はアンガーマネジメントについて取り上げ、他事業所の意見が取りこめたことや支援の振り返りができて良かったといった評価もいただいたため、虐待防止研修については今後も継続していきたい。</p> <p>グループワーク実施について、昨年度は同じ業種の人たちで配置したが、今年度については異なった業種の人たちで配置した。この配置が良かったという声も多かったため、来年度の配置も考えながらグループワークを実施していきたい。</p> <p>権利擁護・差別解消部会からの提案としては、自立支援協議会全体で何か一つの研修会なり講演会ができれば良いと考えている。予算については例年10,000円が付いていると思うが、なかなか予算の底上げができていないため、市に対する見直しを行ってもらうためにも、全体で行えるものを企画していきたいということを提案する。</p> |
| 部会長 | <p>地域生活支援拠点部会は、令和3年度に立ち上げ、4年目になる。大きなテーマとしては、市内の利用者の状況を把握するという点について、4年かけ緊急時の受け入れをメインテーマに取り組んで来た。3年間で一定の体験利用、数十名を市内短期入所事業所に繋げることができた。年度当初に事務局にも協力してもらい、ハイリスクとして親御さんが高齢で緊急のリスクが高いという方々のリストをもらい取り組んだ。しかしながら、リストを見直し更に優先度の高い方へのピックアップを考えることまでは行えなかった為、次年度に繰り越すこととする。</p> <p>支援困難事例への対応については、相談支援事業所と短期入所事業所、先生方を含め20数名が参加し、グループスーパーバイズの手法を用いて2ケースの事例検討を行った。成果としては、事業所職員がアイデアを出すことでこういった考え方もあるのだという協議ができたと考えている。</p> <p>事業所状況を十分に把握していないということについては、拠点部会を軸と</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>した市内事業所の一覧表を作成したいと考え、現在作成中である。事務局にも協力してもらい、A4用紙1枚で写真を付け、強み等を記入してもらい、まとめたものを来年度には示せると考えている。</p> <p>緊急時に短期入所事業所が受入れできるよう取組み、今年度も10ケースほど体験が進んだ。その中で、体験から定期利用に繋がった方がいることや、今まではあまりできなかった今日の今日で受入れる取組みについても着手できるようになってきている。結果的にその後の定期利用にも繋がるといったこともあるため、来年度以降も計画的な体験利用を進めると共に、いざという時に受け入れられるような事業所の体制整備を行っていきたい。</p> |
| <p>部会長</p> | <p>相談支援部会からは、相談支援部会のあり方について、視野を広げる機会と学ぶ機会として、東久留米特別支援学校の先生を講師に招き、進路指導や卒業後について学んだ。</p> <p>地域課題を抽出し地域づくりをするという点については、部会員のスキルアップや地域づくりに繋げることを中心に、野中式事例検討会を東久留米市と合同で2回開催した。40名程度の参加者にてグループワークを実施し、アセスメントの深堀ができたことや、東久留米市との意見交換ができたことも良かった点であり、来年度も実施したいという声が上がっていた。</p> <p>また、部会では毎回相談支援事業所の不足の声が上がっているが、通所先や移動支援の不足もあり、移動支援については深刻な状況がある。土日の余暇や通学に影響があるといった声を聞いている。解消する具体的な取組みや実際にどの程度サービスが足りないのかについて、実態調査が必要な状況になっている。</p> <p>基幹相談支援センターの設置に向けた検討については、東村山市の基幹相談支援センター長を講師に招き勉強会を実施した。基幹の役割や東村山市の基幹の取組みについて話してもらい、その後グループワーク及び意見交換を実施した。次年度に向けては、清瀬市ならではの形や役割を具体的に検討し、事務局会議や本会議に挙げられるようにしていく。</p> |
| <p>部会長</p> | <p>子ども部会では、事業所・関係機関の繋がりの強化と児童を巡る教育、防災について見識を深めることをテーマとして取組んだ。繋がりの強化については、各事業所での困難事例を挙げてもらい、部会内で検討、アドバイスをする形で実施した。事例検討を通じ、他の関係機関の話を聞いたことで、自事業所だけでは思いつかない視点が得られる機会となり、情報共有できたことは良かった。また、各機関の関係強化も進められた。今後は虐待なども含めた困難事例を取り上げ、更なる関係強化を図りたい。更には、部会内の関係を強化することで、将来的には部会内にとどまらず、放デイの送迎のことなど課題を整理するなかで、教育委員会などに現状を伝えることで連携がとりやすくなるのではないかと考えている。</p> <p>防災の勉強会も実施し、防災防犯課の出前講座にて防災に対する基本的な知識を学ぶ機会となった。行ってみて知らなかったことや同様の内容でも繰り返し行うことで、振り返る意味でも機会を設けることができるため、防災に</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>ついて取組めるようになると考えている。今後は外部講師を招いたりして、各事業所の職員も参加できる形での研修を行い、更に防災に対する見識を深め備えていきたいと考えている。今後、1～2年は部会内で行うとしても、それ以降は事業所内でも落とし込めるように取組み、部会としてはまた独自の議論ができれば良いと考えている。まずは来年度も引き続き行っていきたい。</p> |
| 会 長 | <p>各部会から報告をもらった。協議会の位置づけとしては、この会は本委員会であり、少し異なった形で事務局会議があり、それと同じぐらいの活動として各部会に活動してもらっている。様々な意見はあろうかと思うが、部会や事務局会議で協議したことの報告、また今後の方針についてご意見をいただければと思う。この会の位置づけについてはもう少し協議できればという意見も出ていたが、このような形となっていることはご容赦頂ければと思う。</p> <p>では、各部会からの報告について、ご意見をもらえればと思う。</p> <p>口火として、各部会での取組みについて、事業所間の連携や顔の見える連携について地域課題も含めて活発に議論してもらえていたと感じている。それが双方の理解に繋がり、災害時や緊急時の潤滑油にもなっていくという印象を持った。</p> <p>もう一つは、実際にこういった活動が行えたといった可視化ができると、できていることとできていないことに対する議論にも繋がっていくのかと思う。それぞれ課題に挙げてもらったことについては、次年度に繋がると思う。</p> |
| 委 員 | <p>地域生活支援拠点部会の方向の中で、今日の今日のケースを受けた事例を伺い、短期入所に取組んでいる事業所として、なかなか今日の今日で受けるということは難しく、情報をもらい段取りを組んで受け入れることに慣れているところである。今日受けたケースについては、具体的に情報共有等どのように取組んだのかについて伺いたい。</p> |
| 部会長 | <p>今回のケースについては、同施設内の相談支援事業所のケースであったため、連携は取りやすかった。しかし、従来はそれすらも体制的に難しく、断るケースが殆どであった。今回のケースは家族が凄く疲弊していたことや、事業所内の看護師等も受入れについて理解が進んだこともあり、前向きに捉えられたことから進められた。親御さんからも現場職員に感謝の言葉ももらい、自分たちが役に立っていると実感できたことも意識改革に繋がったと思う。しかしながら、これが他の相談支援事業所で全く知らない人の対応であったら、同じようにできたかという点については課題が残る。まだ途上だと感じている。</p> |
| 委 員 | <p>情報の共有化については課題ということだが、今回は比較的対応しやすかったということで、内容も分かった。</p> |
| 会 長 | <p>私も同じことに関心をもっているが、GP事例分析として Good practice(うまくいった事例)と Good poor (うまくいかなかった事例) その違いは何かというところで、可視化として見えてくるものがあると次に繋がってくると思</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>う。感謝されたり役に立ったということが前向きに捉えられただけでも良かったのではないかと思う。</p> |
| 副会長 | <p>会長がいったように、各部会が同じように行ったことの成果があると思う。可視化することと数値化は難しくても言葉にして理解できる形で提示することは、来年度の課題でもあると思う。何がどこまで到達し、何が課題かが見えてくると思う。</p> <p>権利擁護・差別解消部会については、私も部会員の一人として、普及啓発の成果は見えにくいですが、今年のはぼり旗や販売を行ったため、それがどのような成果となったかについて来年度は明確にしていきたい。</p> <p>地域生活支援拠点部会は、色々な事例が上がってきているため、特徴的な事例を集め、事例集の作成や拠点整備の状況やどの位置にいて今後の課題は何か等、どのように事例を乗り越えどのように取組み、課題は何かということを実例集という形で整理できれば良いと思う。</p> <p>相談支援部会は、基幹相談支援センターの設置もあり、私が会長を行っていた頃から話しにもあったため、市の相談支援の状況や全国の状況、近隣市の状況のすり合わせを行いながら、清瀬市の基幹に対するニーズを抽出し、実際にどのように取組んでいくのかについての検討をしていかないと前に進めないと思う。これは部会だけでなく、新たな検討委員会の設置も必要になってくるのではないかと感じている。</p> |
| 部会長 | <p>権利擁護・差別解消部会は、のはぼり旗等について伝えてはいるがアクションとしては弱い印象があるため、来年度は残りののはぼり旗も全て配布できるようにし、力を大きくして顔と顔を合わせてお願いできるよう動いていきたい。次年度は特別支援学校等の生徒に描いてもらうというのも一案だが、全く別の生徒の方が良いのか等、部会の中で考えながらポスターを描いてもらうかを検討したい。</p> |
| 副会長 | <p>思い付きではあるが、来年度は権利擁護・差別解消に資する障害者週間の取組みを行い、それがどのような成果を生むのか、結果はどうだったのかについて、企画から報告までを一貫して事業所にやってもらい、それを我々が受ける形でさらに次年度に向けて考えるとといった、実質的な成果を見出せるようにしていきたいという想いがある。</p> |
| 会 長 | <p>のはぼり旗等、実際に行っている成果もあると思うし、計画段階から可視化することで、取組み状況が明確になるということである。</p> |
| 部会長 | <p>地域生活支援拠点部会についての副会長からの提案はごもっともであると考えている。4年活動している中で、ここまでの整理や見える化する意味も含めて事例集の作成は良いと思う。部会長も変更するため、次期部会長が進めやすくするためにも、見える化していきたいと思う。</p> |
| 会 長 | <p>相談支援部会については、基幹設置のニーズは相談部会任せにせず、全体に関わることでもあるため、協議会や作業部会といったところで進める必要を感じている。障害福祉計画の中で、設置目標は掲げたが、書いたからやらなければならないというよりも、清瀬市にはなぜ必要なのかという部分をきち</p> |

| | |
|-----|---|
| | んと固めた上で進めていかなければならないと考えている。 |
| 事務局 | <p>基幹相談支援センターにおける市の対応としては、障害者計画や障害福祉計画の上位計画である現行の地域福祉計画が令和8年度までとなり、令和9年度から新たな地域福祉計画が制定される予定である。それに合わせ重層的支援体制整備事業というものを進めていく方針で考えている。</p> <p>この重層的支援体制整備事業というのは、高齢分野で言えば地域包括支援センター、障害分野では基幹相談支援センター、その他生活困窮者自立相談支援機関等が、横の繋がりを持つ中で、相談者の属性や世代、相談内容に関わらず、包括的に相談を受け止めるという方向性を持つものになる。その為、基幹相談支援センターもそれに倣う形で一体的に進めていくことが望ましいと考えている。</p> <p>しかしながら、議論は継続して進めておく必要があり、副会長がおっしゃった設置についての新たな検討委員会も含め考えていく必要があると感じている。その上で、他機関と繋がりを持ち、ゆくゆくは障害分野での専門機関は基幹相談支援センターが担うものと考えている。それまでの間に財源の確保も行う必要があるため財政部局ともすり合わせを行っているが、設置については努力義務の段階では予算措置が難しい状況である。一方で設置については必要なことだとも考えているため、引き続き財政部局とのすり合わせは継続していく。その為、設置については、令和9年度以降に進めていきたいというのが、現状での市の方針として考えている。</p> |
| 会長 | <p>努力義務だからいらないんでしょというのではなく、こういう状況だからこそ設置に向けて努力しなければならないことを折衝では伝えていく必要がある。そこに持っていくための武器が揃えられているかということも必ずしもそうではないため、そこを可視化し、必要性や足りていない部分の実態を明確にしていくことが必要だと考えている。</p> <p>予算が足りないから動けないということよりも、基幹を設置することで、回っていく部分があると財源的にもこんなに費用対効果がでることやコストは将来的に下げられるといったことを示せると良いのかと思う。そういう意味でも可視化を進められれば良いと思う。</p> |
| 副会長 | 重層的支援体制整備事業を進めるのが令和9年度からであれば、予算要求も含め、今議論を進めておかないと令和9年にも乗り遅れると思う。予算要求が令和8年度としても、構想や何をどのように実現するかについて予算要求の手前で行っていなければ間に合わないと思う。地域課題や基幹のニーズや構想等を行わなければ間に合わない為、会長の力もいただきながら来年度にはそのことを打ち出してもらえればと思う。 |
| 会長 | ごもっともなことだと思う。とはいえ、今まで何もしなかった訳ではないため、そこを踏まえながら取組んでいきたい。まずは具体的なロードマップを示していきたい。相談支援部会でも基幹については議論していると思うため、その点について部会長からあればお伝えいただきたい。 |
| 部会長 | 相談支援部会の方向でも上げたが、東村山市の基幹相談支援センターの方からお話を聞く中で、清瀬市が大きな市ではないため、基幹についても様々なことに取組むよりも相談支援専門員のバックアップ体制を整え、困難事例や |

| | |
|-----|---|
| | サービスが切れた際のアフターケアを担ってほしいという声があった。また、サービス提供が足りていないことについて、部会で調査を行うものかどうかを示してもらえたらと思う。 |
| 会 長 | 今、浮かんでいるのは、次期障害福祉計画の策定を行うにあたりニーズ調査を来年度行うと思うため、その調査についてはどのような対応か。 |
| 事務局 | 調査については、障害者計画で実施した内容を引き続き使用することを考えている。 |
| 会 長 | 新たな調査は行わないということか。 |
| 事務局 | 障害者計画を通じての調査ということで行っており、新たな調査は行わないと考えている。 |
| 副会長 | 調査の質と内容は違うと思う。 |
| 会 長 | あの調査では、実際に何をどの位必要かということが見えにくく、行えるなら実際のニーズや実態が浮き彫りになる調査を行えばと考えていた。そうであれば、協議会として検討できればとも思う所であり、事務局とも相談しながら少し考えたいと思う。 |
| 副会長 | 協議会の要綱内に調査可能という文言がある。調査をやらないと見えてこず、進めない。また、部会で行うことでもないと思う。 |
| 会 長 | 相談支援部会から上げてもらったことを吸い上げて協議会でどうするかを検討していきたい。 |
| 委 員 | 事業所にはサービスが不足しているといった声が上がっていると思うが、市側に直接声は上がっているのかについて知りたい。 |
| 事務局 | 市側には事業所不足といった声が直接きているかということ、来ていないのが現状である。利用者やご家族としては、市よりも事業所の方が言いやすいという側面もあると思う。 |
| 委 員 | 移動支援については他事業所がカバーしている側面があるのかもしれないと思いついた。 |
| 部会長 | 地域生活支援拠点部会でも研修予算について話題に上がるが、どの部会でも上がっていると思う。どの部会がどう使うかについて、予算設定もあると思うが、来年度も同じことが起こると思われるため、この場で話し合っておきたいと思う。企画書を描いて出すようなことも必要になるのか。 |
| 事務局 | 障害福祉課として財政部局に依頼した予算要求については、各部会で研修を行えるように依頼していた。結果としては、各部会分は難しいということであったが、例年 10,000 円だった予算については、ひと部会分ではあるものの、30,000 円の増額にはなった。しかしながら、全体での研修ということにはなるため、そのお金を分配するよりは大きな研修を行い、その中で講師を呼ぶためのお金として利用するといった認識になると思う。研修内容の方向性については決めておいても良いと思うが、来年度については、部会で話し合う中で決めてもらえれば事務局としても対応する。本会議の日程についても増やすことで要求していたが、結果的には例年と同数になった。必要だと思うことについては財政に当たっているが叶っていない現状である。 |

| | |
|-----|--|
| 副会長 | 部会長が言ったように、企画書を描いて出す必要があるのか、あるとすればどのようにすればよいのか、集約をして会長から提出する必要があるのか、といったことについて、今後お金を要求する上でどのような手続きで交渉すれば良いかについて、聞きたいと思う。 |
| 事務局 | 予算の確保については、まずは福祉課に伝えて欲しい。 |
| 副会長 | 我々も、今までが中途半端だったと思う。部会も含め、どのようなお金が必要かを話せていなかった為、そういった内容の物を会長名で出すことで、スムーズになると思ったが、どうか。 |
| 事務局 | 時期的には8～9月までに出してもらえれば、次年度に向けて動きやすくなると思う。 |
| 部会長 | 30,000円をどう活かすかが次年度の課題になる。 |
| 会 長 | 協議会としてということと、部会としてということを考えていた。清瀬市の地域課題についてこういう課題があるため、研修を行いたいということや、研修そのもののニーズから成果までの可視化も示していければ良いと考えている。ただし、それは今の予算の話からすると一本化せざるを得ないと思う。仮に、30,000円を2回に分けて行い、2回研修を行うということも可能か。回数の規定はあるか。 |
| 事務局 | 回数の規定は無い。 |
| 会 長 | 各部会のニーズに合わせて行うこととして、交流会といたただけでは中々集まらない中で、そこに虐待防止研修を組み合わせて集まってもらい、研修会や交流会も兼ねるというところで考えたい。事例検討会等の自分達でも行える研修会を行う中で、事業所間の交流も深まったりすることがあるように、予算に対する戦略を考える上で、ただ案を上げるというよりも、協議会全体としてはこういうことを考えていくため、部会からもこういう研修を企画検討して欲しいというように、少し行き来する中で具体的な企画を上げてもらい進めていければ良いと思う。 |
| 副会長 | 権利擁護・差別解消部会の虐待防止研修については、小さい事業所では担えないようなことも、その研修に参加することで研修の認定を行い、それを事業所に持ち帰り事業所に拡散してもらおうという意図や戦略がある。そのため、様々なネットワークや意味合いを駆使して取り組めており、他市でもあまり行っていないことではないと思うため、是を以て予算を取りに行っても良いと思う。 |
| 会 長 | 開催の根拠が明確であれば良いと思う。引き続き部会長とも協議しながら進めていきたいと思う。 |

2 精神保健福祉担当者連絡会(報告)

事務局より、精神保健福祉担当者連絡会(報告)資料2に基づき説明

| | |
|-----|---|
| 会 長 | 精神障害者支援について、この連絡会は部会にはなっていないが、部会としても良いのではないかと思う。市内事業所で協議していることや関わりのある人達を見ても、協議会で顔を合わせるメンバーと同じ人もいるため、なぜこの会だけが部会ではないのかと思う。1回目と3回目に参加したが、議論される中で課題分析が大事であり、精神障害者についてはストレングスの視点を持って、障害サービスの枠に限定せず、地域には様々な社会資源があることや、障害者だからということではなく生活者として見た時に、この人が大切にしたいことは何だろうか、という視点で議論すると、こちらも肩の力を抜いて向き合うことができると思う。その様なインプットをしている場面があったように感じた。 |
| 副会長 | 清瀬市の障害者施策にも繋がるが、全体のニーズ把握や三障害から上がってくるニーズを把握することは必要である。これだけの議論が連絡会で為されているものの、我々が把握して協議会の俎上に載せることができているとすれば、我々と協議する場も絶対的に必要だと思う。重層的支援体制を作る上でも、精神の問題も含め把握し、全体を議論していく必要がある。その為にも、方向性としては部会として組み入れることが必須となると考えている。 |
| 会 長 | 今期の計画には、精神保健福祉担当者連絡会と連携を図りながらとなっているため、部会のタイミング的には次期計画に合わせてということもあるかもしれない。計画に向けた調査の中で、先程の新たな調査ができないかと言ったのは、精神障害に関するニーズをもう少し浮き彫りにならないかと思ったからであるが、データは業種別毎にあるか。報告書には三障害が含まれたデータとなっているため、精神障害の人で何歳ぐらいの人がどういう生活状況の人がどんな困難課題を経験しているか、そういったことが見えると清瀬市全体の課題として扱っていけると思う。 |

3 令和7年度会議日程について

事務局より、令和7年度会議日程について資料3に基づき説明

| | |
|-----|---|
| 会 長 | まずはこの日程について確保をお願いしたい。どうしてもこの本会議だけでは議論できないと感じているところではある。この本会議については謝金ができるが、事務局会について謝金はないものの、もしこの年2回の議論だけでは物足りないというご意見があれば、事務局会などの別の会にも出席いただければと思う。どちらかという事務局会が協議の場となっていて、本会議は何かあればそれに対しご意見をいただくといった関係性の位置づけになっている。スケジュールと位置づけの話が合わさってしまったが、このような形で進めていければと思う。 |
|-----|---|

4 日中サービス支援型共同生活援助評価について

わかば会より資料4に基づき説明

| | |
|------|---|
| 会 長 | 資料について、協議会の欄が空欄になっているのはこれから説明を聞いた上でチェックを行うからということで、何かあればご意見をいただければと思う。 |
| わかば会 | 短期利用について、緊急性は無いが、将来のためにグループホームを利用したいという家族がいた。役員面談まで繋がったが、市外に引っ越したこともあり、精神面でももう少し落ち着き、日中生活の様子を見ながら行っていくこととなり、実現には至らなかった。ここまで外部の方の利用について具体的に話せたのは今まで無かったため、今後も家族の気持ちを汲み取りながら支援していけたら良いと考えている。 交流会については、起震車を呼び地域の方々と利用者の交流に繋がった。今後も別な体験を行い仲間との交流になるよう計画を立てている。 地域の方との挨拶も増え、利用者が声を掛けることが多くなった。その為、地域の人たちにも知ってもらえているという実感が湧いている。 |
| 委 員 | 日中の受入れの幅として、本人の希望通りの生活ができているかどうか、満足度といったところを確認しながら支援ができると良いと思う。地域交流や生活サポートの満足度を上げるような取組みを引き続き行ってもらえると良いと思う。 |
| 委 員 | このままで良いと思う。 |
| 委員 | 短期入所について、受給者証は持っていたのか。入る前に持っていないと利用できない為、その点はどうだったのか。短期入所を利用するという事は、計画相談も入っていると思うが、状況が全部わかっていることが基本になると思う。確かに、緊急で良く分からないということもあると思うが、短期入所を受け入れる際、そこまで情報が無い中で受入れるということが出来るのかという点を伺いたい。 |
| わかば会 | 保護者との面談前に相談支援事業所とも話を行い、利用者の状況や情報はもらった上で面談に臨んでいる。 |
| 会 長 | 実習生やボランティアを受け入れるという箇所について、こういうことをしているが0人になっている等、受入れについて伺いたい。 |
| わかば会 | 受入れに対する工夫等は特に実施できてはいない。サークルわかば内で草の刈り取りを行ってくれる人がおり、利用者との交流に生まれているため、それをボランティアというか。 |
| 会 長 | この項目については、閉塞的にならず、ボランティア等も施設内に入り取組んでいるかどうかを問うていると思う。そういった意味では、草刈などは地域住民との交流の機会に入ると思う。 体制的に難しいのか、事業形態からすると受入れについては想定されないのかについて伺いたい。 |
| わかば会 | わかば会としては、実習生とボランティアと一緒に並んでいること自体が少 |

| | |
|------|---|
| わかば会 | し難しいと思う。実習生は指導者講習会を受けた者が指導する条件があるため、それを満たしている職員は「うらら」にはいないが、わかば会の中にはおり、法人としては実習生を受け入れている。ボランティアについては、利用者の特性を踏まえ安定した生活を重視しているため、なかなか中には入っていただき辛い状況はあると思う。しかしながら、開かれていない訳ではないため、来ていただいて風通しの良い法人経営を行っていることは言えることである。 |
| 会長 | 実態に即して考えた場合、実習生 0 名、ボランティア 0 名のところで問題無しにチェックを付けてしまって良いのかどうかと思う。何らかの工夫の余地はあるか。あると思って、ここはチェックを付けないということで良いか。また、2 頁の表にて夜間の体制はどうか。更には、土日何人配置しているかという実数が見えると良いと思う。この欄に記入してもらえればと思う。 |
| わかば会 | 土日については、少なくとも 3 名おり、日中 1 名、夜勤者 2 名である。この欄に追記していく。 |
| 副会長 | バックアップ体制はあるか。 |
| わかば会 | 連絡が入るようになっている。 |
| 会長 | 緊急時として動いた事例はあるか。 |
| わかば会 | 日常的には、利用者が嘔吐した時にマニュアルに沿って動いた事例はあった。 |
| 会長 | マニュアルが作成されていたため、それに沿って対応したということで良いか。それらは記入した方が良いのか。 |
| 事務局 | それに即して対応したのであれば、記入しておいてもらいたい。 |
| 会長 | 5 頁の改善や見直しに取り組んでいることの中で、事業所における課題、助言を求めたいこと、とあるため、皆さんからも何かあればお願いしたいと思う。また、利用者・家族からの意見・希望の内容で、通院同行について、この内容のことが要望としてあり、それを見直そうということかどうか。 |
| わかば会 | 要望はなく、親の高齢化に伴い免許を返上することになり、この内容の状況になった。 |
| 会長 | 次の年末年始の宿泊を遠慮している保護者に宿泊を進め利用に至ったということについては、改善・見直しの項目に書いても良いと思う。 |
| わかば会 | 本当は希望があるだろうと推測し行ったことであったため、この項目に記入した。 |
| 会長 | そういう取組みを行ったことについて、書き込める箇所は他に無いか。 |
| わかば会 | 宿泊利用が固定化されていたところを見直し、宿泊日数を増やすという意味での見直しである。 |
| 会長 | それが分かる表現にしてもらえると良いと思う。 |
| わかば会 | 補足として、親御さんの高齢化により通院が大変であるという一方で、法人全体で考えていることとして、職員が全体の生活を評価、アセスメントして医療機関に伝えることで、医療と福祉の連携をやらないといけないということがある。その点について、今の人員の中で職員の視点をどう確保するかという議論になっている。法人としては地域で共に暮らすということが大前提 |

| | |
|-----|--|
| | であるため、施設内で過ごすというよりも、ご家族とも話し合う中でご本人の考えている生活をサポートする取組みを実現していきたいということである。そういうことを表記したいと考えているため、内容を修正していきたい。 |
| 会 長 | より良い支援ができるように見直し、検討がされているということであると思う。こういう形で職員が動いており、こういう検討をして改善に繋がっているという記載だと良いと思う。 6頁のプライバシーに配慮した支援についても加筆があればお願いしたい。プライバシーに配慮した支援という項目について、項目自体分かりにくい面がある。内容について事務局から何かあるか。 |
| 事務局 | 特にこの項目について、こう記さなければならぬと言ったことは無いいため、事業所の解釈になる。 |
| 会 長 | ここに記載のあることについては対応しているということの良いか。最後に、9頁の要望・助言については、要望はなかったため対応無しということが良いと思う。 実習生の受入れ以外は問題無しということを取り組んでいるとする。受入については可能な形となるよう検討してもらおう。 |

5 その他（障害者計画調書評価・共生社会の実現に向けて）

事務局より、障害者計画調書評価について資料5に基づき説明

| | |
|-----|---|
| 会 長 | 書式については各課が同様の書式を利用しているため、この書式内で記載できることを検討していくこととなる。記載の仕方等は随時検討しながら、それによって何が見えてくるのかを調書に繋げていければと思う。 |
|-----|---|

会長より、共生社会の実現に向けての説明

| | |
|-----|--|
| 会 長 | 第7期障害福祉計画の中で、共生社会の実現に向けてということを理念に掲げているが、可視化できればと思い、ワークショップ形式で事務局会議で取り組んできた。課題は課題で上げてもらったこともあったが、目指すゴールを可視化する作業を行った。議論したことを整理し、具体的にどんな活動をしていけばよいかという、それが活動計画にも繋がってくるところでもあるが、その議論まで進められればと考えていた。いったん内容を整理し、具体的な活動を検討していければと思っていたが、なかなかその場を設定することができなかった。年度は跨ぐが、来年度に本会議や事務局会議でもう少し見える形で共有し、皆さんにもお示しできればと思う。事務局会議にご参加いただけるのであればお願いできればとも思う。 |
| 委 員 | 基幹相談支援センターに向けてという所では、逆算すると来年度の課題として本会議でもそうだが、各事業所でも考えていかなければならないことを痛感した。 |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>予算無くしてはできない為、そこをどうしたら良いのかという所を変えられない現状が自立支援協議会にはあるのかと思う。取組みや形として行うことがある物については、皆さんとしっかり協議しながら取り組めれば良いと考えている。在職者の問題や課題についても情報共有できれば良いと思う。</p> |
| 委員 | <p>第5次地域福祉計画と第5次地域福祉活動計画は一体策定とすることが決まっている。予定として、令和7年度にアンケート調査を実施するため、皆さんが思っていることを書いてもらえると、少しは反映できるのではないかなと思う。同時に、社協が地域に対してヒアリングを実施するため、そこでも一言二言いってもらえれば良いと思う。地域福祉計画は上位計画となり、障害福祉計画にも下りてくると思うため、ぜひ情報を寄せていただくと良いと思う。</p> |
| 委員 | <p>ひだまりの里も短期入所を行っており、内容的にもお受けしなければいけない内容であった。職員体制もあり、直ぐにはお受入れできなかったが、シフトを整理しお受入れするに至った。短期入所する上では、そういったケースにも答えていかなければいけないと考えている一方で、実際の体制整備の所で困難さを感じている。</p> <p>また、初めてのケースであったため、どこまで情報を得た上で受けるべきか、その辺りのルールが明確になっていなかった為、その辺が整理できて良かった。</p> |
| 会長 | <p>では、これで令和6年度・第2回地域自立支援協議会を終わりたいと思う。</p> |